

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	益田県土整備事務所	氏名	三浦 誠二
派遣先 団体名	NPO法人 浜田フットサルクラブ		
<p>① 研修の日時</p> <p>A. 平成27年 7月11日(土)15:00～21:30・18日(土)15:00～21:30</p> <p>B. 平成27年 8月 2日(土) 8:00～16:00</p> <p>C. 平成27年 8月 4日(火)13:00～18:00・5日(水)8:00～17:00</p> <p>D. 平成27年10月18日(日) 8:00～16:00</p> <p>② 研修の内容</p> <p>A. こんやまちの土曜夜市</p> <p>場所：浜田市紺屋町商店街</p> <p>7月11日(土)、18日(土) 15:00～17:00 イベント会場準備</p> <p>17:00～21:30 イベント運営補助・片付け</p> <p>「こんやまちの土曜夜市」は、古くからの個人商店が軒を並べる紺屋町商店街を会場に、6月末から7月中旬にかけて開催される昔ながらの手作り感あふれる商店街をあげてのイベントであった。</p> <p>会場である紺屋町商店街もかつては多くの買い物客で賑わっていたが、大型店舗の進出、他の商店街の誕生などにより利用客が減り、空店舗も増え、商店街の活気も年々なくなってきたため、商店街店主らでつくる「紺屋町商店街振興組合」を中心に、この状況を打破すべく、イベント開催を行うことを始めた。</p> <p>今回参加した土曜夜市も店先で商品を販売する形式から、ステージを設けたり、組合で屋台を出すなど、イベント形式に変更したことにより、参加した両日も子供からお年寄りまでの多くの人が通りを埋め尽くすほどの賑わいだった。</p> <p>今回お世話になった「NPO法人 浜田フットサルクラブ」が目的とする「浜田市民の健康増進・体力向上・地域コミュニティの建設」「スポーツからまちづくり」の具体的な取り組みとして、同商店街の空店舗を活用したコミュニティスペース「Serendipity（セレンディピティ）こんやお茶の間（通称こんちゃ）」を運営しており、商店街のイベントの企画、運営、こんちゃのゆるキャラ「こんちゃくん」でのイベント参加等、紺屋町商店街振興組合とともに商店街復興、地域住民とのふれあいのために努力していた。</p> <p>（主な担当業務：会場準備・片付け、運営補助(出店:わたがし屋の運営)）</p>			

B. 小学生フットサル石見交流選手権大会（通称：YASAKAカップ）

場所：浜田市弥栄町 フットサルやさか競技場

8月2日(土) 8:00～16:00 大会運営補助・片付け

浜田市弥栄町にある「フットサルやさか競技場（大田肇雄フットサルパーク）」で行われた「小学生フットサル石見交流選手権大会」は今年で9回目を迎え、大田市以西のU-12までの選手で構成される16チームで熱戦が繰り広げられた。

この大会は「豊かな自然環境の中でスポーツを通して友情を育み、森林の大切さを学ぶ」という目的のもとに(財)県西部山村振興財団、山陰中央新報社、市、県が主催し、県西部ではメジャーな大会である。

大会当日は天候もよく、小さな戦士たちは灼熱の人工芝のピッチで優勝をめざし、真剣なまなざしでプレーを行っていた。

試合の合間には木工教室も開かれ、チーム名を呼ばれた選手たちは「勝負に挑む鋭い目」の小学生から一転し、「物作りを楽しむ優しい目」の小学生たちとなり、大会スタッフの指導のもと、試合と違うほのぼのとした時間を過ごしていた。

大会運営は浜田フットサルクラブのスタッフを中心に行われ、各方面からの協力もあり、炎天下での大会だったが、何事もなく無事終了し、選手たちも夏休みの大事な思い出の1ページとなったことだろう。

大会運営は浜田フットサルクラブ、浜田市サッカー協会等のスタッフを中心に行われていた。

（主な担当業務：会場準備・片付け、記録係）



（優勝カップは木製のトロフィー(写真右側の白いボールがついたもの)）

C. EXILE CUP（中国大会）

場所：浜田市上府町 サン・ビレッジ浜田

8月4日（火）13:00～18:00 大会準備

8月5日（水） 8:00～17:00 大会運営補助・片付け

浜田市にある「サン・ビレッジ浜田」で行われたEXILE CUP 2015は全国の小学校4年生から6年生までの選手で構成されるチームが決勝大会（全国大会）に向け、各地域の予選大会を行う大規模なフットサル大会であり、中国地区大会も中国5県から多くのチームが参加し、決勝大会に向け、熱戦が繰り広げられた。

この大会は大会名のとおりダンス&ヴォーカルグループ「EXILE」が所属する事務所が社会貢献活動の一つとして取り組んでいるもので、今回の中国大会にも劇団EXILEの青柳翔さん（ご縁の国しまねのイメージキャラクター）が開会式で挨拶をされるなど、他のフットサル大会とは違った雰囲気の大大会であった。

大会に必要な資材等の準備及び搬入、大会運営は大会実行委員のスタッフが行っていたが、ピッチの準備、受付、審判、記録等競技に関する運営は浜田市サッカー協会、浜田フットサルクラブ等の協力が非常に大きかった。

大会当日は真夏の炎天下でのプレーとなり、熱中症等の恐れもあったが、運営側からの声かけ、飲料水の無料配布等の対応も十分に取られていたため、大事もなく大会は終了した。

（主な担当業務：会場(ピッチ)準備・片付け、記録係）

今回の研修とは関係ないが、中国大会での優勝チームは9月23日（水・祝）に愛媛県で行われた決勝大会で惜しくも準優勝という結果であった。



D. 企業対抗フットサル大会

場所：浜田市弥栄町 フットサルやさか競技場

10月18日(日) 8:00～16:00 大会運営補助（記録）・片付け

浜田市弥栄町にある「フットサルやさか競技場」で行われた「企業対抗フットサル大会」は浜田市周辺の企業等を対象に行われたフットサル大会で「必勝！」というより「フットサルを楽しもう！」という大会であった。

参加チームの中には、小学2年生のプレイヤーがいるチームもあり、大人との激しい(?)バトルを見せる場面も見られ、チームそれぞれが楽しんでプレーを行っていた。また、地元密着の大会であることもあり、上位チームには商品として、地元浜田市の農産物や地元企業の加工品等が山のように贈られていた。

大会運営は主催者である浜田フットサルクラブを中心に行われ、当日の準備から試合審判、記録、片付けまで多くのスタッフの協力により大事なく終了した。

(主な担当業務：会場準備・片付け、記録係)

大会参加チーム記念撮影



③ 研修の感想

今回の研修を通して、浜田フットサルクラブのNPO法人としての目的である「浜田市民の健康増進・体力向上・地域コミュニティの建設」、「スポーツからまちづくり」を達成するために地域に密着し、多様な手法により行っている活動に参加し、いろいろな体験、話を聞くことができ、大変有意義な研修であったと思う。

特に「こんちゃ」スタッフの「人との接し方」は見習うべきことが多い、これからの業務等にも生かしていきたいと思った。

目的達成の一手段として、紺屋町商店街の空き店舗を利用してコミュニティスペース「Serendipity（セレンディピティ）こんやお茶の間（通称こんちゃ）」を設置しており、運営は浜田フットサルクラブのスタッフがメインで行っているが、県立大学の学生も普段からスタッフの一員として関わっており、地域を巻き込んだ運営がなされている。

コミュニティスペースの利用についても、小学生を対象とした学習（学校の課題）の場や遊びの場の提供、一般の方へのスペースの貸出しを行っており、小学生への対応は県立大学の学生や浜田FutsalClub HNT/どんちっちの選手が中心に行っている。

今回参加した土曜夜市にもスタッフやステージでゴスペルや大道芸等を披露した学生など、いろいろな形で県立大学の学生が携わっていたが、後片付け後の雑談のなかで、こんちゃのスタッフと学生が今回の反省点、次回イベントの内容の相談など、お互いに遠慮なく、和気藹々と話しをしている姿を見て、こんちゃのスタッフ、県立大学の学生、商店街の間に信頼関係が築かれていることを感じた。

これ以外にも、様々なことに取り組んでおり、具体的な例として、商店街運営に重要な「駐車場」の確保についても、「市道用地」の利用について相談等を行っているということだった。

スポーツ系の取組みは浜田市を中心に活動しており、フットサル大会の主催、運営協力などをはじめ、小学生を対象としたフットサル教室など、地元で根付いた活動を行っている。

その活動の中心となっているのが現在、中国フットサルリーグに参戦している「浜田FutsalClub HNT/どんちっち」の選手たちで、試合審判、大会運営等も慣れられておられ、今回参加した大会もスムーズな進行、運営がなされていた。

主催の大会は地域密着型の大会がほとんどで、参加も常連チームが多く、和やかな雰囲気の中で大会運営がなされていた。

今回、研修では不慣れなことが多く、「NPO法人浜田フットサルクラブ」の皆さんには、ご迷惑をおかけすることも多々ありましたが、大変、よい経験ができたことに感謝しています。 y

(注1) 研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。

(注2) 報告書は、平成28年1月31日までに人事課あてにメールで提出してください。